

# ほんまち 本町商店街

## (本町商店街振興組合)

愛知県豊川市

# 空き家と道路空間を戦略的に活用し、 街に新たな賑わいを創出

### 取組の背景

### 観光客向けの街から、住民が 一日中楽しめる商店街へ

同商店街は豊川稻荷が近いものの、振興組合設立前は、初詣の参拝客以外は、昼も夜も人がほとんど歩いていない状況が多かった。これまで観光地として観光客向けの商店主体であったため、地域の買い物客が郊外や市外の商圈に流出する問題が生じていた。本町商店街は「一日中楽しめる商店街」をビジョンに掲げ、「生活がこのエリアで完結できること」を目標として、まちづくりを段階的に実施することとした。

設立当初、駅前に立地するにも関わらず空き店舗が増加しており、立地を活かした夜の賑わいの創出を第一段階と考えた。空き店舗対策事業を行い、居酒屋等の飲食店を増やしたが、平日や昼間の賑わいには改善の余地がある。これは日用雑貨品を扱う店舗の少なさが大きな要因と捉えており、地域住民の昼間のニーズをつかむ、生活に根付いた店舗の再生が第二の段階だと考えている。

今後戦略的なまちづくりを進めて行く上では、既存商店の魅力向上、競争力ある生活利便施設の誘致、ソフト事業の充実が必要であり、大規模商業施設やネットショッピング等と差別化した商店街をどう具体化していくかを課題としている。



雨でも賑わう週末のNHM48前

### 取組の内容

### 空きスペースを活かす発想 が演出する、街の賑わい

同商店街の取組は、駅前の空き家の借地権を引継ぎ、有志で店舗ビルとして建て替えることから始まった。周辺住民をターゲットとする競争力のある市内外の有力飲食店を誘致し、不動産コンサルタントの強みをいかし、駅前の夜の賑わいを創出した。この事業の後、エリアの出店希望が増えて長年空いていた店舗も借り手が見つかり、周辺への波及やエリアの価値の向上が図られた。空き店舗対策を効率的に行うため、豊川市TMO主催の空き家見学ツアーと積極的に連携した。

次に自主財源の確保と駐車場不足の課題を解決するため、空き店舗を収去してできた更地を借り受け、商店街用のコインパーキングを整備した。

またソフト事業として、新しくできた店舗や、魅力ある既存店を住民に周知することを目的とした「本町ナイト」や「軽トラ市」等の独自イベントを開催している。両イベントとも道路の使用許可・占用許可を得て公共空間を活用し、フリーマーケットや移動店舗の招待、音楽イベント等を行い賑わいを創出している。「本町ナイト」は約50店舗が参加し、各店舗を食べ歩き飲み歩きができる豊川駅前最大のイベントで、「軽トラ市」は軽トラの荷台を店舗に見立て、地元の食べ物や雑貨等を販売するイベントである。

他の団体と協力し、豊川稻荷の境内を活用したクラフトマーケットの「縁」や「豊川きつね祭」と同時にイベントを開催する等、相乗効果も狙っている。近隣商店街が協力して1日中楽しめるイベント「ほいとも祭」を開催して約3万人を集め、街の連携体制も広がっている。(ほいともは本町・稻荷・豊川・門前の頭文字)

他にインバウンド対策として補助金を活用し、公共Wi-Fi整備や商店街Webサイトの英語・中国語対応を実施した。また、キャッシュレス対応のため、QRコード決済を商店街単位で導入するという取組も行っている。



## 取組の成果

## 空き店舗に次々に飲食店が 出店、挑戦は次の段階へ

空き店舗対策は9戸の空き店舗の解消と、11店舗の増加による商店街活動の活性化、本町ナイトの参加店舗の増加という効果を生んだ。

豊川市TMOの中心市街地交通量調査によると、歩行者通行量は2015年が58,309人、2017年は66,462人と増加傾向にある。近隣の豊川駅東駐車場の出庫台数も徐々に増加しており、本町商店街の取組はエリア全体の活性化に寄与していると評価される。

豊川市TMOによる商店街に関するアンケートでは、商店街活動に「満足」「まあ満足」の合計が63%と周辺商店街と比べて高く、活動の成果が認められている。

次のテーマは昼間の来街者の増加と、大型商業施設やネットショッピングとの差別化を図ることである。本町商店街では各店舗の強みを活かしながら、更に戦略的な事業候補地の選定や交渉等に関わり、中規模で競争力のある店舗を誘致するなど戦略的なまちづくりを進めしていく。



公共不動産(道路)を利用した移動店舗で賑わう商店街

## 実施体制

同振興組合には不動産コンサルタント3名が加入して、中心的に空き店舗対策を行っている。新しい店舗が増えた結果、若い世代の店主も増加し、新しいことを積極的に取り入れる風土になっている。

月1回以上商店街の役員会を開催して頻繁に情報交換を行うほか、SNSを活用して活発に情報共有と話し合いがなされている。豊川市との情報共有も密接である。広報活動を重視し、外部のマーケティング専門家が参画して新聞や冊子で情報を発信するとともに、豊川市のイベントサポート制度を活用し、公共施設や教育機関にもイベントのチラシの配布を行っている。

## キーパーソンからのコメント

### 観光と地域生活の両方に目を配り、中心市街地の役割を担うまちへ

私が商店街の活性化、まちの活性化に動いたきっかけは、父も所属していた旧西本町商店街が解散してしまったことと、生まれ育ったまちが文字通りシャッター通りになっていた現状を憂いてのことでした。今までには観光地としてのまちづくりに傾倒していたくらいがあり、地域住民に目を向けた取組が十分に行われていないという課題がありました。

豊川市の中心市街地にありますので、観光地としてのまちづくりと、地元の方の生活の両方に目を配りながら、中心市街地としての役割を担えるまちへと発展させていきたいです。そのため、時代遅れとならないよう積極的に若者の意見を取り入れながら、まちの皆様とともに豊川市を盛り上げていきたいと思います。



本町商店街振興組合  
理事長  
田中 幸人

商店街  
概要

本町商店街は豊川市の中心市街地にある。豊川市の玄関であるJR豊川駅及び名鉄豊川稲荷駅の駅前に立地し、愛知県内有数の参詣者を集める豊川稲荷に近接している。旧「西」本町商店街の解散後、若い有志がエリアを広げて空き家対策を行って店舗数を増やし、2015年に再出発した若手中心で運営されている振興組合である。

長年観光地としての取組が行われたエリアであったが、近年は民間及び公共の不動産を活用しながら、近隣住民を呼び込む仕掛け作りを実行している。周辺の3つの商店街や豊川市、豊川市TMO(豊川市開発ビル株式会社)と協力や連携を深めながら、まちづくりを進めている。

- 所在地 愛知県豊川市西本町
- 人口 約18万人(豊川市)
- 電話／ 0533-86-7823
- FAX／ 0533-86-0091

- URL <http://www.honmachi.site/>
- 会員数 25名
- 店舗数 25店舗(小売業5店、飲食業16店、サービス業1店、不動産業2店、医療サービス業1店)

- 商店街の類型 エリア価値向上型
- 主な客層 サラリーマン、国内観光客／40歳代、50歳代